

| 平成21年度横浜市次世代育成支援行動計画 専門部会（第1回）会議録 | |
|---|---|
| 日 時 | 平成21年7月30日（木）13:30～15:30 |
| 開催場所 | 松村ビル本館地下1階会議室 |
| 出席者 | 伊達委員（座長）、奥山委員、加藤委員、北岡委員、小坪委員、小出委員、小林委員、山同委員、新保委員、増沢委員 |
| 欠席者 | 飯田委員 |
| 開催形態 | 公開（傍聴者 0人） |
| 議 題 | 1. 副座長の選任について 新保委員（了承） 2. 要保護児童を取り巻く現状と課題 (1) 事務局からの報告 (2) 伊達座長からの発表 (3) 増沢委員からの発表 (4) 意見交換（専門部会で検討すべき課題について） 3. 次回の協議事項の確認 |
| 決定事項等 | ・副座長として新保委員が座長より指名され承認された。 |
| 議事 1. 副座長の選任について ・座長より新保委員が指名され、了承された。 2. 要保護児童を取り巻く現状と課題 (1) 事務局からの報告 ・事務局より報告（省略） (2) 伊達座長からの発表「専門部会の開催にあたって」 ・伊達座長から、以下の内容について発表が行われた。 1) 社会的養護を必要とする子どもの数 2) 社会的養護における多様で複雑な取組みへの理解 3) 児童虐待防止と社会的養護のつながり 4) 「理念」についての再検討 (3) 増沢委員からの発表「次世代育成支援における社会的養護の充実について」 ・増沢委員から、以下の内容について発表が行なわれた。 1) 次世代の児童虐待発生を予防するために 2) 児童虐待対応システムと次世代育成支援 3) 社会的養護における児童相談所、地域（要保護児童対策地域協議会）、児童福祉施設・養育里親との連携 4) 児童福祉施設と養育里親の増設、推進と機能しやすい設置のあり方 | |

(4) 意見交換（専門部会で検討すべき課題について）

(加藤委員) 次代の親づくりはこの専門部会の課題の1つ。養護施設や里親でいう自立は、就職活動の支援の話で、その後の結婚や育児までといった話は出ない。自立支援の中に結婚、育児の問題が入ると先が見えてくるのではないか。

ランドデザインの数値目標について、横浜市の要保護児童800人のうち、家庭に戻る子、里親に出せる子、出した方がよい子はどのくらいいるのか。里親委託率の問題と絡めて、数値が出せるのなら出した方がよい。里親を増やそうというのが、具体的数値を上げた方が進みやすい。

法務省でも議論し始め、親権の問題は民法が絡んで難しいが、この問題にも触れた方がよい。

里親と施設の連携がなく、施設側から里親の支援ができないかと提案があったので応えたい。

児童相談所の機能強化と充実は、人を増やすと同時に人材育成と児童相談所の機能を考えなくてはならない。

30歳までの社会的養護については、行政の受け皿としてどこがやるのかを含めて議論していくべき。

(伊達座長) 児童相談所はこのままでよいのかという問題は、虐待対応のシステムと、親子の援助の両方をきちんとやれるのかという問題だと思う。

(小坏委員) 家庭できちんと養育が受けられずに保護されて、その後自立した子どもが20才前に犯罪を起こしたケースに数件関わった。そういう子どもは本当に一人ぼっちだった。就職後、困ったときに何回も施設に連絡しようとしたが、助けてと言えなかったという。精神的に育ちきっていない状態で社会に出て、つまずいたときに支えてくれる人がいない。女子の場合は親になる気持ちもないまま、望まぬ妊娠してしまうこともある。

対象を18歳で切るのではなく、社会に送り出した後一人の大人として自立できるまで、何かあったときに寄りかかれる場を確保することが次世代育成につながる。18歳を過ぎてからの対応は、仕組みに組み込まないと、施設や里親が何とかしてあげたいと思ってもうまく回らない。

(小林委員) 虐待による分離ケースに何件か関わった。近隣の方が虐待を通報し、子どもがいなくなり、親も転居したという話を聞く。地域から離れていく方が多い。家族再統合と言われるが、なかなか同じ地域に住んでいられないというのが実情。地域で支えると言うが、他地域から来た人は支えることができるが、この地域で分離した場合は難しい。

分離せずに訪問し、地域で支えて何とか立ち直ったケースもあった。育児のヘルパー、保健師、民生委員が関わり、父親の協力と周りのサポートがあって何とか母親は立ち直った。

(奥山委員) 次代の親づくりというキーワードが出た。子どもには、子どもらしい子ども時代を送ってほしいと思う。子どもには子育ての体験と教育の充実をという話があったが、乳幼児期の子育て家庭を見ても子育て支援は親だけではない。

保育園は働いていないと入れないが、時々分離して保育園でみてもらえるとよいケースがある。そういう子どものための乳幼児期の施策も必要である。

国際結婚、夫婦の考えが合わないなど夫婦の葛藤があってわざわざ学区外の幼稚園や学校に行くことがある。私たちは、地域の中でその子のことを知っている人達で情報をつないでみていくという非公式なネットワークとしてやっている。地域とほとんどつながりのない子どももいる。

虐待死亡数は0歳児が多いと思うが、その部分はまだ地域子育て支援が足りておらず、訪問事業や地域につなぐところが薄いのではないかと感じる。

(伊達座長) 養護施設に措置されてくる子は突然ではなく、その前のプロセスで子育て支援やいろいろな人達

が地域で関わっている。重くなって関わりきれなくなり、入所となる。それをもう1歩地域でやりとりができるようになる仕組みができないか。きちんと専門家が関わってやりとりできるようにしていったり、別なサービスを拡充したりという工夫があって、子育て支援そのものも機能すると思う。

子育て支援で重いケースがあるとお手上げ状態になり、児童相談所に通告して助けを求める。そうすると児童相談所も地域の資源を使えないまま施設入所になってしまう。

(小出委員) 児童相談所は、厚生労働省、横浜市も努力し、人は増えているが、アメリカに比べると子どもの人数に対して20分の1しかない。人を増やすだけでなく、人材育成も必要。

予防の1次、2次、3次、親づくりという話しは新鮮な思いがした。虐待を4つのステージと考え、第1ステージが発生予防、第2ステージが通報から初期、第3ステージが子どものケア・親のケア、第4ステージが再統合・地域支援としていたが、これまで明確でなかった再統合から地域支援のところに焦点を当てた形で資料を作ってもらい、理解しやすかった。

再統合は3次予防の段階から1次予防に戻るのではないと思う。違った形の地域資源、システムの中に戻さないとうまくいかないという実感を持っている。ここを議論してまとめられるとよい。

(北岡委員) 虐待を受けた子が次に親になれるような支援が大事だと感じた。職員の配置、職種の問題など限界ではあるかもしれないが、施設の中で子どものクオリティオブライフを高めること、ハード面での施設環境の問題も重要である。

施設では個人的相談に乗ってもらえなかったという話も聞く。スタッフの充実が望まれる。

養育が十分でない家庭は多いので、施設の子どもの問題ではなく、全部を含めて次を担っていく子ども達をどう育てていくのか。1つずつ制度で仕組みを作っていけるとよい。

(山同委員) 区役所は対症療法的な仕事が多い。次世代を担う子どもが同じことを繰り返さないようにという発想、区の中の施設から地域の生活の場に通えたらよいということは素晴らしい。区の要保護児童対策地域協議会に当たる虐待防止連絡会でどう連携をとるか検討しており、具体例を今後の参考にさせていただく。

(新保委員) 今回私たちが話し合った子どもたちを、次世代育成の柱にしていくという目標を掲げられないか。特に青年期まで含めてというところがよいと思う。こども青少年局が総力を挙げて取り組むテーマとしても面白い貴重なテーマではないか。

目標値については、例えば、生活の場（自宅からの移動）の移動距離を半減する、5分の1にすることなどが可能ではないか。高校進学率、大学進学率、里親委託率（例えば3歳未満における里親委託率）も指標としてあるかと思う。

3. 次回の協議事項の確認

(事務局) 大変有意義な議論ができた。要保護児童に限らず、すべての子どもたちという視点で議論いただけたことがよかった。ここで議論したことを第1分科会（乳幼児期）、第2分科会（青少年期）、合同分科会の中でうまく整合性がとれるとよい。

次代の親づくりについて事務局でも議論したが、扱いに悩んでいた。話を伺う中で産む、産まないは自由だが、次代の親になるきちんとした環境を整えてあげることが我々の役目であると思った。

要保護児童の数は、実際に保護されている子どもの数でしか把握できない。2回目以降は数字を示しながら社会的養護の必要な子ども、里親委託、施設入所、地域での支援の観点も取り入れていきたい。

以上

| | |
|----|---|
| 資料 | 資料1 後期計画策定の検討と専門部会の進め方について 資料2 「次世代育成支援行動計画」と「横浜市こどもの社会的養護グランドデザイン」 資料3 親子保健事業の取組概要 資料4 横浜市の要保護児童を取り巻く状況について 資料5 横浜市子ども虐待防止ハンドブック(平成20年度改定版) 資料6 児童虐待による重篤事例等検証について 資料7 横浜市こどもの社会的養護グランドデザイン 資料8 養育家庭支援機能の検討状況 参考 伊達座長からの発表 関連資料 参考 増沢委員からの発表 関連資料 |
|----|---|